

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長 長野 正己	電話番号	0852-22-5123
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	島根の「売れる米づくり」推進事業		
目的	(1) 対象	農業協同組合等	
	(2) 意図	島根米の食味・品質のレベルアップを図り契約的取引を推進	
事業概要	JAしまねの農業振興重点施策に基づき、島根米の販売強化に向けた体制整備のためカントリーエレベーター（CE）やライスセンター（RC）等へ、食味計や1.9mm選別網目の導入を支援する。 （事業実施年度 平成27～29年度）		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	1. 9mm選別網目導入施設割合	目標値		36.0	40.0		施設
	式・定義	1. 9mm選別網目導入施設数/JAしまね各地区本部CE・RC総数（累計）	取組目標値	31.0				
			実績値	37.0	38.0			
			達成率	119.4	105.6	-	-	%
2	指標名	主食用米の契約的取引率	目標値	55.0	60.0	65.0	65.0	65.0
	式・定義	主食用米の播種前・収穫前・複数年契約比率	取組目標値			80.0	80.0	80.0
			実績値	56.0	82.0			
			達成率	101.9	136.7			%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	8,001	13,000
うち一般財源 (千円)	8,001	13,000

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度は、1.9mm選別網目についてJAしまねの水稲生産部会での導入を進め、5組織で700台余が事業を活用し導入された。（事業を活用し、新規で1.9mm選別網目を導入した組合は、「いわみ中央水稲生産部会（177台）」、「雲南稲作推進協議会（120台）」、「島根おおちハーフ米生産部会（14台）」、「大田市水稲生産組合（136台）」、「JAしまね出雲良質米生産協議会（257台）」）</li> <li>JA施設については、隠岐どうぜん地区本部で導入された。</li> <li>食味計については、県内JAの10地区本部で導入されている（1地区本部は未整備、3地区本部は異なる機種）。</li> </ul>
--

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年3月末現在で大粒に調製される主食用米の栽培面積は約50%となり、島根県内の米のレベルアップが図られつつあり、販売先や生産部会から品質等について評価を得ることができた。</li> <li>大粒化された主要3品種については、より高い単価での取引につながった。</li> <li>食味計については、導入された地区本部においてデータ収集され、生産者へのデータ提供やタンパク値仕分けによる販売などに利用されている。</li> </ul>
---

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米政策の見直しに伴う「需要に応じた生産」への移行に向けて、実需者が求める品種・数量・品質などのニーズに対応できていない。</li> </ul>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリから、実需者から引き合いの強い「つや姫」「きぬむすめ」への転換が進まず、要望に応じ切れていない。</li> <li>主食用米の需要が減少する中、業務用需要は堅調な伸びが期待できる状況にあるものの、県内では業務用需要に対応できるような生産・販売体制ができていない。</li> </ul>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要に応じた生産に向けて、実需者が求める品種への転換や栽培法の導入など、業務用の米づくりを進めていくための生産・販売体制を構築していく必要がある。</li> </ul>

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> <li>「需要に応じた生産」を実現するため、実需者が求める品種への転換や生産量・品質の確保等に向けて生産の転換・拡大に取組むことにより、業務用需要へのいち早い取組みとこれによる他産地との差別化を図り、契約的取引の充実・強化を進め有利販売につなげていく。</li> </ul>
--